

情 報 局 編 輯

# 週報

## 朦朧出撃

比島方面の戦闘激化  
決戦と遵法精神  
通信防諜  
戦ふ物資紙

十一月一日

419 號

昭和二十一年十一月一日  
○ 隣組・職場で必ず回覧を

五錢



週言

自分のことばかり考へてこせしめてゐる人は、生活の中で喘いで伸びがとまつてしまふ。これに反して國のため、天下のため潤達な氣宇を以て活動する人は自分の一身はひとりてに立つてゆき、ますし伸びてゆくのである。

開戦の勝負に於ても隅の方で小さく生きることがばかり考へてゐると、かへつてまはりを取圍まれて苦勞するが、雄大なる構想を以て中央に進出することにより、石はひとりて生きて敵を壓するのである。

大東亞戰爭遂行の氣宇はしかく雄大なるを要する。

十一月六日、我々は東亞共同宣言一周年の記念日を迎へる。大東亞盟邦の代表帝都に集ひ、雄渾なる大東亞建設の理想を全世界に宣布してより茲に一年、大東亞の天地にこの大理想は着々具現せられつゝある。これを妨害せんとして反攻し來る敵は、臺灣沖、比島沖に於て惨敗を喫した。しかしながら敵は戦備を整へ再び反攻し來るや必定である。我々は再びこれを邀へ撃つて敵撃滅を期せねばならぬ。

戦ひつゝ建設する。これ大東亞共同宣言を具體化するの道である。而して大東亞建設てふ雄大なる目的を實現することこそ、帝國の自存自衛を全うする所以である。

遠大なる理想と潤達なる氣宇とを以て持場々々に於て眞摯に敢闘せよ。さらばこの大戰爭に終局の勝を得るや必定である。



艦隊の艦艦決戦へ

大本營海軍報道部

勝利か、死か、日本民族興亡の運命を賭けた日米決戦が、いま比島を舞臺として凄烈なる火蓋を切つたこの秋、忍従血涙を吞んでひたすらに神機到來を渴求しつゝあつた我が艦隊も、ついに決然、南海の怒濤を蹴つて比島海面に出撃した。一億國民がいまかくと熱涙を拭つて待望してゐた帝國艦隊の艦艦が、いよいよ艦艦相接して出動したのである。

しかも、ひとたび戦を決して艦隊を進めるや、忽ちにして艦敵を撃破し、相次ぐ戦果を齎したつたのである。十月二十四日以來、二十六日までレイテ灣並びに比島東方海面のフィリピン沖海戦において、我が艦隊は陸軍航空部隊の活躍と打つて一丸となり、海、空相呼應して敵機動部隊に與へた戦果のみでも、だいたい次ぎの如く八十二隻以上に及ぶ。

- 航空母艦 八隻
- 巡洋艦 五隻
- 驅逐艦 三隻
- 輸送艦 九隻以上

敵は比島上陸に先立つて、まづ日本本土と比島とを結ぶ陸送路を遮断すると共に、わが航空兵力を滅殺せんとして琉球、臺灣方面に有力なる機動部隊を繰出したのであるが、しかしわが陸、海軍基地部隊の邀撃に遭ひ、はじめにもその過半兵力を喪失して、十月十六日、一應遁走せざるを得なかつたのである。

ところが敵もさるもの、臺灣海面における作戦失敗の局面

- 巡洋艦 五隻
- 驅逐艦 三隻
- 輸送艦 十七隻
- 航空母艦 二隻
- 巡洋艦 二隻
- 驅逐艦 二隻
- 航空母艦 一隻
- 巡洋艦 一隻
- 驅逐艦 一隻
- 輸送艦 百二十隻

わが艦隊つひに出撃す

敵は比島上陸に先立つて、まづ日本本土と比島とを結ぶ陸送路を遮断すると共に、わが航空兵力を滅殺せんとして琉球、臺灣方面に有力なる機動部隊を繰出したのであるが、しかしわが陸、海軍基地部隊の邀撃に遭ひ、はじめにもその過半兵力を喪失して、十月十六日、一應遁走せざるを得なかつたのである。

ところが敵もさるもの、臺灣海面における作戦失敗の局面

- 航空母艦 八隻
- 巡洋艦 五隻
- 驅逐艦 三隻
- 輸送艦 九隻以上

は機動の機動部隊をもつて大膽不敵にも比島中央部のレイテ島に向つて上陸用兵員並びに兵器を満載した輸送船を伴つて姿を現はしたのである。

そして十七日以來レイテ島に侵入した敵輸送船團、並びに護衛部隊に對する我が猛撃により大損害を受けたにも拘はらず、二十日、敵は遂にタクロパンに、また引続き翌二十一日にはドラッグに上陸し來り、さらに有力なる機動部隊は比島海面に數群に分れて遊弋し、比島重要都市に對する艦載機による反復爆撃を加へつゝ、比島への本格的侵寇の機を窺つてゐたのである。

この間、皇軍は陸、海軍戦闘機を放つて、敵機動部隊を求めて果敢なる爆撃を加へ、敵空母三隻、戰艦二隻、輸送船二隻、驅逐艦二隻ををれ／＼撃破し、大型輸送船一隻、驅逐艦一隻ををれ／＼撃沈するの大戦果を挙げたのであるが、しかし我が艦隊は依然、隱忍沈黙を続け、満を持して戦機の熟すの時機を待たつたのである。

しかし戦機はいよいよ熟し、勝機を掴むべき風雲は動き、我が艦隊は威風堂々比島東方海面に出動、そして二十四日未明に至るや、忽如として敵機動部隊の前面に出現、つひに日米艦隊決戦の歴史的火蓋を切つたのである。

怒れる巨砲は一齊に火を吐き、基地航空部隊並びに艦上機

の荒鷲は、敵艦を求め魚雷を抱いて相次いで悲壯なる體當りを遂げ、水雷戰隊、潜水艦の活躍もまた實に目覚しく、そして敵艦隊撃滅を期する海空艦隊の果敢なる挑戦に、敵は周章々狼狽しつゝも戦勢の挽回に努めつゝある如くである。

### 勝機を掴む秋は到來した

米國太平洋艦隊司令長官ニミッツは、臺灣沖航空戦終了の後に「ハルゼー第三艦隊は、日本艦隊に待望の決戦を挑んだが、日本艦隊はつひに出て來なかつた」と語り、また米國海軍當局は、米國艦隊の一部は、はじめ日本海域において日本艦隊に挑戦したが、日本艦隊は決戦を避けた」と發表したが、しかし敵はいまこそ日本艦隊の正體をはつきりと見たであらう。「日本艦隊よ、出て來い」といつたニミッツの招待狀に對し、我が艦隊は今こそ無言の鐵槌をもつて回答したのである。

しかしこの赫々たる大戦果は、生易しいことで挙げられたのではない。銃後國民はこゝを十分銘記せねばならないのである。この戦果は全く皇軍勇士の體當りの結晶であり、二十六日までに我が方も前掲のやうに航空母艦をはじめ戰艦、巡洋艦、驅逐艦に損害を受け、また未歸還百二十六機といふやうな尊い犠牲を出してゐるのである。

わが海軍は開戦以來すでに二年間、常に苦難と逆境に處しな

がら、たゞ黙々として戦機の訪れるのを待つたのである。敵機動部隊のサイパン島來寇に際し、わが聯合艦隊の一部は出動したが、遺憾ながら敵に決定的打撃を與ふるに至らず、涙を呑んで他日を期し、また臺灣沖航空戦においては、頗く大戦果は收め得たが、戦機未だ完全な熟せず、戦局は反轉して比島に移つたのである。そして大東亞戰爭發生以來、最初の本格的艦隊決戦であり、世界戦史未曾有の空海呼應する大海戦が展開されたのである。

### 「一機一艦」體當りの結晶

物量戦に關する限りにおいて、日米果していづれが勝つかを決定するものは、敵の持つ物量が、我に數倍する補給線の長大化に伴ふ消耗度を補つてなほ且つ我を壓倒し得るか、或いは我はたとひ保有物量の絶對量において敵に及ばぬといへども、しかもなほ我が物量は内線作戦の利點を活用し得て、敵に對抗し得るに十分なるものを、好むとき、好むところに集中し得るかどうかといふ問題である。従つて日本が勝つ途は、この内線作戦の有利性を活用し得るに足るだけの物量、とりわけ飛行機を保有することであり、それを送り送ることこそ銃後一億國民に課せられた責務である。

いふまでもなく、戦場が立體化された近代戦においては、艦隊の主力をなすものは既に航空機となつたのである。今日

艦隊とは海上艦艇並びに艦載機、水雷戰隊、陸上海軍部隊等より構成されてゐるものであり、従つて艦隊決戦とは単に艦艇のみの戦闘ではなく、海軍から舞ひ立つ艦載機も、上層部よりの飛行機もすべてが参加する戦闘であり、なほ且つ陸軍兵力もその主力たるべきものとなつた。

われ／＼は豪膽にも、群がる敵機動部隊の真只中に殴りこんだ我が艦隊の相次ぐ赫々たる大戦果を聞くにつけて、思ひ出すのは米内海相が今秋の議會において「我になほ打つべき幾多の必勝方策あり」と述べた滿々たる自信の言葉であり、また同議會の感謝決議に對し「決死必勝の妙策を練り、戦機に投じ驕敵を撃滅し、誓つて聖慮を安んじ奉らんことを期す」との返電を齎した豊田聯合艦隊司令長官の決死の誓ひである。

何といふ痛快なる戦果であらうか。何といふ大きな感激であらうか。しかし、われ／＼は絶對にこの戦果に浮かれてはならない。米内海相が、私は前線將兵の所望通りの飛行機を送つてやつて、思ふ存分に活躍させてやりたい氣持で一杯である」とと赤裸に語つたあの言葉を忘れてはならぬのである。ガダルカナル以來すでに過去二年間、じり／＼と押されて來た太平洋戦局を挽回して、日米戦の主導性を我が手に把握すべき勝機は、正にいま比島海面に發見されたのである。わが聯合艦隊はすでに「一機一艦」の體當り追撃戦を取行せてゐる。銃後もまたこの勝機を逸せず、速かに戦力増強の追撃戦に挺身せねばならぬのである。



# 決戦と遵法精神

司 法 省

することはできないといはなければならぬ  
いのです。

## 遵法精神の昂揚こそ 開撲滅の要件

今日、全国の裁判所や検事局で處理する  
いはゆる開撲滅事件の数は、まことに國民  
の想像を超えた多数に上り、しかもこゝに  
特に注目すべきことは、被告人の数が逐年  
激増してゐるだけではなく、犯罪の質にお  
いてまことに悪質なものが目立つてきたこ  
とです。

かゝる現実に直面して、司法部はいかに  
檢断の刃を揮ふべきかについて、不斷の反  
省を加へつゝ開撲滅防遏のために苦心を重  
ねてきました。本年から各地の裁判所、檢  
事局に經濟違法廳が設けられました  
が、この施設は官民一致の構成を以て經濟  
違法精神を昂揚し、經濟犯罪防遏に資せん  
とするものであつて、檢事局を中心とした  
各官廳間の綜合連絡機關としては、別に  
濟犯對策協議會が各地の檢事局に設けら  
れてゐます。これらの施設の運営に當つて  
は、今後ますます國民各位の協力を得て、

開撲滅に對する秋風の羽搏き、一億國民  
民待望の一大戦果は、遂に、次いで比島  
方面で挙げられました。この戦ひは、正に  
日米決戦の火蓋を切つたものであり、今や  
私ども國民は、強く逞しい決戦生活を貫徹  
せんとの決意よく固く、一氣、勝敵破  
摧の闘魂が燃えたるのを覚えるのです。  
この昔烈な決戦期に際しては、敢へ  
てこゝに開撲滅の問題をとり上げようとな  
るは、いはゆる開撲滅の毒蓋が決戦下に  
おいて眞に恐るべきものがあり、現下の捕  
給生産額、否、一億總力戦の進行上まことに  
重要に堪へないものがあるからには、かな  
りません。

この萬般の物資にわたる生産、價格、配給  
などの部面や、土地、建物の賃借、賣買など  
のやうな關係、或ひは機械、設備の新增  
設、資金その他、勤務給與の問題のやうな國  
家經濟の見地からする統制面に至るまで、一  
およそ靡さへあれば、物と金と勤勞關係の  
全分野にあまねく入り組んで來るのです。  
今やわが國の經濟統制はこれらの多方面  
におよんで、直接間接、いろ／＼の緻密な  
大小の交錯網を描いて、相互に有機的な聯  
關を結んでゐるために、開撲滅の撲滅を期  
するには、國家の全機關が固く一體のもの  
に、全機能を發揮して、諸々の取引を正し  
い方向に導くことが絶対に必要であり、ま  
た國民各位の一人々々があらゆる公私の生  
活の隅々に至るまで、よく開撲滅のために  
協力するのなければ、到底その目的を達

その目的の達成に努めたいと考へてゐ  
る次第です。

今や東國が直面してゐるこの重大時局こ  
そは、遵法精神をいよく振作し、以て興  
國の基を固むべき秋であり、これによつて  
はじめて、内、公共の安寧は保持され、外  
敵たる戦果を擴大し得る基礎をなすこと  
を確信するものです。

よく開撲滅すること、開撲滅の横行は、  
専ら行政の運営に關するものと斷ずるべき  
ありません。もちろん、開撲滅のやうな不詳  
罪をこの決戦下の國體からなすために  
は、政治上にも、行政上にも、果敢に適切な施  
策を遂行すべきはもとよりのことですが、  
やはり、遵法精神の昂揚、戦時國民道義の  
確立が開撲滅撲滅のための絶対的條件であ  
るといへばなりません。

## 開撲滅は決戦下の利敵行為

さらにも、戦ひに勝つためには、法律の  
規則のとほしいことをいふな、決戦に拘つ  
ては増産ができないではないか、といふや  
うな態度に出る者があるとしたならば、こ  
れは飛んでもない考へで、萬一にもそ

のやうな形勢が現はれるならば、現下緊  
急の要請である生産増強は甚だしく阻害さ  
れ、その弊害は眞に恐るべきものがありま  
せう。現に、いはゆる産地における違法だ  
る賣出しは、正常な配給を妨げて甚だし  
く國民の食生活を阻害し、また各種の重要  
資材を齎るブローカーの暗躍は、これら諸  
資材の奪ひ合ひによつて、結局は恰も蝸  
が自分の足を喰ふやうな行動を演じてゐる  
ことを知らねばなりません。

さらにも、開撲滅に對する國民資金の手  
特が健全な貯蓄心の敵であることはいふま  
でもありません。かくして開撲滅が助長す  
る悪性インフレーションの傾向は、日と共に賣惜し  
み、買溜めの傾向を醸成し、物資の出廻り  
や生産の促進はますます阻害されるといふ  
結果を招き勝ちなことは、争ひ得ない事實  
です。

決戦下貴重な戦力物資を隠したり、隠蔽  
したりして、開撲滅の相手の出現を待つや  
うな態度に於ける國民が假りにあつたらどう  
てせう。このやうな人々の行爲が、國民すべ  
てが皇國に忠誠心を培ふべき秋、礼儀に  
値ひするはいふまでもなく、皇國內外の

情勢は正にかゝる隠蔽物資こそ一刻も早  
く戦力化され、敵米英撃滅のお役に立てま  
せねばならぬ時であります。

## 道義遵法心のない者に 忠誠心なし

さて、開撲滅の及ぼす影響は、かゝる物質  
的な方面だけではないのです。國民の日常生  
活にみる、いはゆる小さな闇の隙限のない漏  
漫が漸く道義の頹廢、遵法精神の衰退——  
私どもは本當にこれを恐れなければならぬ  
いのです。道義遵法の念のない者に忠誠な  
行動は到底期待することはできません。

去る十月八日の大詔奉戴日に當り、小國  
内閣總理大臣は恒例の全國放送で、道義の實  
踐に徹せよと叫んで、攻勢轉移の撃滅敵の  
ため一層の戦意の昂揚を促されました。

遵法は正に道義の實踐にほかなりませ  
ん。眞に底力ある戦力の増強は、遵法の精  
神なくして達成し得るものではなく、國家  
總力の結集は、遵法の裏付によつてのみ實  
徹し得るものです。國內の法秩序を紊すこ  
とは、それだけ國力を損耗することにも  
なります。そしてその損耗程度は、戦局の對

烈、物資供給の逼迫とともに激しさを増すのみであるといはなければなりません。

それだけに閣取引を犯す者に對する檢斷は峻嚴の度を加へるべきは當然の事理でせう。極刑を設くべしとの強硬論がでてから既に年月を経たことは世上既に存在し

の通りです。今日、實際の裁判についてみましても、國家總動員法所定の最高刑をはじめとして、幾多重い處刑の事例を数へ得るのである。このやうなことは總力結集上まことに悪しむべき事象ではありますが、犯情によつて、正に一種の利敵行為ともいふべき不届極まるものが存在することは蔽ひ得ない事實です。

まことに司法上、處理の對象となつてゐる閣取引事件の種々相を語ることは、決して好ましいことではないので省略します。閣取引の目的に資するため、被告人の氏名を公示して、一罰百戒の實を擧ぐべしと

閣取引は一億の足並を。案す獅子身中の虫。また最近のことですが、國民生活明朗化運動の一つとして、家庭、街路、職場、交通機関などを清潔にせよとの提唱が上下を擧げて實際化しつつあります。これは

正に、何物をも捨てて戦勝一途に邁進せんがための國民生活の規範が、決して國民生活の各部面を無秩序に、やりつばなしにするこゝろではないといふ意味を示すものとして、まことに大切な問題といはなければなりません。

國民の日常生活における統制や整頓が直ちに刻下焦眉の増進に通じ、戦勝に通ずるものであることを提唱する點において、道義精神といふ道義の面からみた場合と全く同じことになるのです。

繰返して申しますが、決戦段階の進行とともに國家は國民の遵法を求めやみませぬ。混亂は斷じて勝利に寄與するはずが

ないからです。國民生活の明朗は秩序から生じ、剛健は明朗な國民生活の裡に培はれ、そして、勝利は一億國民の剛健に繫つてゐるのです。外、この大戦果をきつかけに戦局の主動性を把握するため、國民の足並は速かに調整されなければなりません。閣取引こそはわが一億の足並を素す獅子身中の虫です。今日、この時、決意を新たに

以上、決戦の到来に關聯し、遵法精神の必要を述べてきましたが、最後に、私は社會各層の指導的地位にある方々に對し、眞の指導者たるに値ひする努力をお願いしたいのです。役得根性は閣取引根性と軌を同じくするまでいはずはれません。役得のある者がその役得根性を捨て切つた時こそ、役得のない者の閣取引を擁護し去る時であることを思はねばならないでせう。

かくしてこそ國民の士氣は眞底より昂揚し、勝利に向つて體當りの戦果を擧げ得るのだといはなければなりません。

# 通信防諜

危急を告げる戦局の推移に呼應して、敵の諜報、宣傳、謀略は日にその悪辣さを加へてゐます。

事實上に防諜戦こそ一億國民が隨時もその職を離れることができない日常の職ひです。防諜戦で破綻するといふことは直ちに武力戦で敗れ、經濟戦で崩壊することを意味します。

それでは、我々ほどのやうに戦ひ、どのやうに守らなければならぬか——以下、通信防諜といふ立場から、この防諜戦の實相を説明することにしませう。

## 通信に光るスパイの目

お互に日本人である以上、自分の通信が敵に情報を提供することを承知で國家の不利になる事柄を通報する者は絶対に許すはりありませんが、うっかり洩らした二燈が敵機に攻撃目標を與へるやうに、うっかりと漏らす一言が恐るべき結果を招く

## ことなる

のです。通信や電話にしろ、外電などに多く無線で送られるスパイは公然と盗聴傍受してゐるものと考へなくてはなりません。

では郵便はどうかといひますと、危険性は同じです。郵便物の中味が巧妙極まるスパイの手によつて途中で掘り取られたり、隠されたり、複製されたりすることはいくらもある例で、たとひ途中で取られた後、どういふ危険があるかも分らないでせう。外國宛のものなどは、その名宛宛や經出國の檢閲機關が全部眼を通します。

このやうに、通信といふものは防諜といふ立場からみると、私達が平常漠然と信用しきつてゐるほど安全なものではないのです。

何んでもないと思つて書いたことが……では次に、どの程度の事柄

## が通信防諜上いけないのか、その範圍を具體的に示すことにしませう。

秘密といふ言葉は何か頗る重大な事柄だけに限られるやうに考へられがちですが、決してそのやうなものではありません。例へば、太郎は二千人ほどの仲間と一緒に東部第一二三部隊へ昨日無事入隊しました」といふやうな事柄は、日常の會話として至極當り前のことのやうに考へられてゐると思ひますが、同様、通信上においても非常に多い例の一つです。ところが、これが敵の諜報網にひつかへれば、思ひもかけぬ軍の重大機密を暴露する結果になるのです。

およそ戦ひに勝つためには、戦線において敵の武力を徹底的に破滅しなければなりません。この武力戦は最高統帥部の作戦によつて動かされるのです。それが現實の戦闘として實現されるまでには、幾段階かに分れた人や物の動きを伴ふところの

情報行動が必要だ。その各段階乃至各部門におけるどのやうに詳細な活動でも、この作戦を中核とする国家活動全般の有機的一環として意味をもつもので、その内容の一端でも絶対に敵に察知されてはならない。

さういふわけで、上に挙げた例などは、一見でもないことのように見えて、敵にとつてはどんなに貴重な情報上の手がかりとなるか、秘密の真相を知りぬきには、困難も及ばないのです。これを、つとめ分り易くひまなく、通信の側からだけでも、次のやうなことが考へられると思ひます。即ち「東部第一二三部隊……千人入隊……」これは何かあるなと感づいた敵の諜報活動は急に活発となる。

東部第一二三部隊へ入隊したばかりですのに、ずいぶん早いので驚いてみます。五日にはもう神戸から船で南方行だと話してあつた、とか、「いよいよフィリピンも戦雲がすね。當地の東部第一二三戦車隊も決死防衛の意氣で、貴方も存じの山田部隊長に率ゐられて、一昨夜出發したさうですか、その他、数多くの通信が手に入るでせう。それらを組立てて作戦上の重大機密を先まで察知することなど、敵の諜報機關にとつては朝飯前のことです。

以上で、お互が通信をする際に、どんな防諜上の心構へが必要かといふ要點は擧げたと思ひますが、最後に、敵の諜報活動の最も直接の対象として、通信上、特に嚴重警戒すべき事項を挙げておきます。軍隊、艦船の動き、召集、入隊等の機密、軍事施設の状況、軍需産業の内容、船舶、航空機の動靜、當局發表以外の空襲被害状況などがそれです。

のパンフレット、新聞、雑誌の類が通信の形で我が國に流入して來てみます。これは敵の諜報活動の役目を果すものとして、敵軍に取縮つてゐますが、今後、敵はこの方法をどういふ形で利用してくるか分りません。

つかれば、忽ち逆宣傳の絶好資料として利用されます。思想戦術に對する弱點を暴露したことになるわけだ。

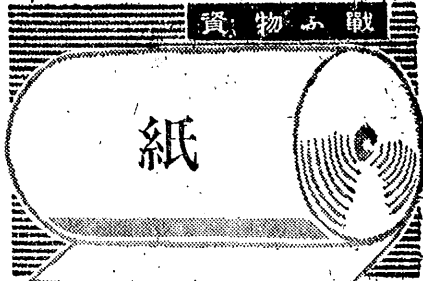
戦ひに勝つためには敵の武力を徹底的に破壊せねばなりません。戦ひの主體である國民の思想に攻撃を加へて、その戦争意欲を崩壊に導けば、武力戦で多大の犠牲を拂ふよりも、遙かに容易に勝利を得ることが出来るわけだ。こゝに宣傳、諜報の重大性があるのです。

なかつたら、こんな通信が敵の手に入らうものなら、彼等はそれをそのまま宣傳ビラに印刷して、前線の將兵の上に空中からばら撒かすかもしれません。放送によつて士氣の沮喪を企てたとしても、現に敵は太平洋島嶼の數ヶ所に放送施設を有してゐるといひます。こんご彼等の戦線が縮小するに從ひ、どんな新手段の宣傳、諜報が企圖されるか分りません。さうした弱點は、まづ通信防諜の徹底の實行によつて敵から護ることが必要なのです。

も、人間には優越感や好奇心から、進んで流言蜚語の仲介人になりたがる傾向があります。通信はそのやうな流言蜚語の類の絶好の媒介です。特に空襲その他、非常事態に直面した際などは、人間の心理が異常な衝撃を受けるので、平靜の時とは、さういふやうな荒唐無稽な流言などが、やすくと信じられたりするものです。

通信院

紙



思想戦の武器、いはゆる「紙の弾丸」といふ意味における紙の位置が、戦力戦といふ観照から如何に重要なものであるかといふことは、今日ではすでに常識化されてゐます。

ける腰が國民の胸にいかにも勇氣を燃え立たせ、無形の戦力を形作りつゝあるか。その力の大きさといふものは、重さや長さの尺度では測ることができないのです。紙といふものなしては、一國の戦争指導は考へられたいといつても決していひ過ぎではないでせう。

遣ひありません。機體の仕上げには研磨紙が使はれたに違ひありません。機體の要所々々に挿入されたパッキングには紙パッキングもあり、紙の變形であるベークライトやファイバーも必要に応じて使用されてゐることです。

また火薬について、最近代戦の要求する莫大な要求量に對して、棉花を使用する以外に、比較的製造が簡易で、大量生産に適する木材パルプや紙を使用することが、すでに列國で早くから考へられてゐます。

紙も兵器

一葉の航空機を考へてみませう。その製作に當つては多量の製圖用紙と書寫具とが費されたに

さらに想像を廻らせば、これに乗りこむべき少年飛行兵は、大空を飛ぶ前にまづ紙の教科書で學んだはずで、ちよつと考へただけでも、すぐにこれぐらゐの想像が成り立つのです。

紙はその文化と思想の媒體としての平時的性格と並んで、濃厚な戰時的性格を具へてきつてあります。その言葉通りの意味において正に紙は兵器なので

また、生産資材としての紙の役割についていふと、あらゆる物資の生産の基礎となる石炭、その石炭を掘るためのダイナマイト、そのダイナマイトの包装は特殊の紙です。雷管にも導火線にも紙が使はれてゐます。

直接人の眼には觸れませんが、軍用機や電線や海底電信のケーブルなどに用ひられる絶縁紙も忘れてはなりません。セメント、アルミナ、肥料などの重要物資の保管や輸送に、クラフト紙の大羽袋が廣く使用されてゐることは説明するまでもないことであり、また變つた方面では、戦下の食糧増産に一夜買つたる温床紙のあることも一顧知つておく必要があります。

幸にしてわが國の製紙力は、一斷して欧米各國に劣るものではないです。いかなる高度の性能を要求される特殊紙といへども、十分にその要求に應じ得る高度の技術が蓄積されてゐる反面、戦時向の比較的下級の紙を豊富に供給できる能力をも具へてゐます。

技術、通信運輸などの面においても、平時に較ぶる機能を發揮せねばなりません。紙はこれらの器用を駆け廻る血液です。輿論指導の面における新聞、出版物、ポスター、紙芝居など、財政金融面における紙幣、軍票、公債、貯蓄券、手形、小切手など、通信運輸面における乗車券、貨車の車票、葉書、切手など、統制經濟面における諸機關の事務用紙、配給通帳、配給切符など、國家機能の活動が高潮すればするほど、新しい血液はより多量に、より迅速に、これら諸器用の中を駆け廻らなければなりません。

工場で生かさう

各方面の膨張した需要を充たすことは、實に容易なことでは、ありません。原料の問題、燃料の問題、輸送の問題など幾多の障

製紙機械も南方進出

南方の建設にあつて、紙が鐵と並ぶ同様の重要性を認め

國家機能の血液

戦争は國家といふ有機體の激烈な活動期です。單に軍の作戰の面だけでなく、經濟財政、科學







週報

昭和十九年十一月一日... 印刷者 東京... 發行所 東京...

本誌の九月一日... 30頁掲載の九月一日掲載(其ノ四)に續ク

Table with multiple columns containing numerical data, organized into sections labeled 11, 12, and 19. Each section has sub-headers like '貯蓄' and '増減'.